

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300377
法人名	社会福祉法人正和会
事業所名	グループホームのぞみ・ささえ
所在地	宇和島市保田甲1932-2
自己評価作成日	平成27年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年10月より始めた、月一回のホーム喫茶(認知症カフェ)も好評で、地域の人達も楽しみにしているとのこと。参加者も増えて楽しく開催している。利用者さんも嬉しそうに接待をして、会話が弾む。年二回の運動会も、今年4月に開設した多機能型事業所の参加もあり、にぎやかに開催できた。お月見にも参加してもらうことも出来、来年も元気で会う約束もできた。「来年も又誘って下さい」とのこと。又、お月見をかねた家族会も、運営推進会議の皆さんも参加してくださって、にぎやかに開催でき、利用者さんも家族と一緒に芋炊き、焼肉をたくさん召し上がっていました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人部長が毎日昼食を食べに来ており、利用者の様子を見たり、職員と話を希望や意見を言いやすいように雰囲気を作っている。今年4月から、介護福祉士の資格保有者は全員正職員に採用されており、又、職員も増員された。又、法人全体の慰安旅行やビアガーデンや忘年会等で交流して、法人全体で職員がイキイキと意欲的に働くことができるよう努力をしている。管理者は、グループホームの全国大会でホーム喫茶の取り組みについて発表した。昨年10月から毎月1回、「ホーム喫茶」を開き、地域の高齢者等と交流する場を作っており、現在、10名程参加している。職員が送迎して、利用者や職員で作ったおやつでもてなしている。又、管理者が行政の資料を用いて、役立つ情報をお話したり、互いの介護経験談等している。事業所の運動会やいもたき等の行事には、ホーム喫茶の参加者や隣の障害者施設の方、ご家族等、日頃お付き合いのある方々も参加して楽しんでいる。又、他法人が開いているカフェとの交流も始まり、利用者が出かけて行く機会が増えている。事業所は高台にあり、地域とのつきあいが難しかったが、ホーム喫茶をきっかけに交流が広がっており、管理者は「事業所の有用性を活かして協力関係を築いていきたい」と話していた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
				1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

(ユニット名)

ささえ

記入者(管理者)

氏名

舟田 清子

評価完了日

2015年11月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念を皆で共有し、ゆっくりと利用者さんと関わっている。朝のミーティングで理念を読み上げ、職員で再確認している。出来ることは一緒にすることで、利用者さんの笑顔が引き出せている。食後もゆっくりとすることで、利用者さんにも落ち着いてもらえるようになり、会話の時間も多くなった。 (外部評価) 事業所理念は「ゆったり 一緒に 楽しく」と作っており、実践に向けて目標を「利用者の為、ペースにあわせゆっくり思いを傾聴し、決して否定しない。」「利用者さんの『出来ること』を取り上げない。一緒に『出来ること』を見つける。」「利用者さんの尊厳を守り、自信を持って頂くことで笑顔を引き出して楽しい生活を応援する。」と立てており、毎日のミーティング時に復唱をしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りに出かけていき、地域の方より声をかけてもらってうれしそうに話されている。又昨年10月よりホーム喫茶を開催しており、利用者さんがお接待してくれる。又他グループホームとの交流運動会には喫茶に参加している方、近くに開設した多機能型事業所も参加してもらって、楽しく過ごすことが出来た。今では皆さん楽しみにして下さっている。 (外部評価) 昨年10月から毎月1回、「ホーム喫茶」を開き、地域の高齢者等と交流する場を作っており、現在、10名程参加している。職員が送迎して、利用者職員で作ったおやつでもてなしている。又、管理者が行政の資料を用いて、役立つ情報をお話したり、互いの介護経験談等している。事業所の運動会やいもたき等の行事には、ホーム喫茶の参加者や隣の障害者施設の方、ご家族等、日頃お付き合いのある方々も参加して楽しんでいる。又、他法人が開いているカフェとの交流も始まり、利用者が出かけて行く機会が増えている。事業所は高台にあり、地域とのつきあいが難しかったが、ホーム喫茶をきっかけに交流が広がりつつあり、管理者は「事業所の有用性を活かして協力関係を築いていきたい」と話していた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の人がいいつでも気楽に立ち寄れる、介護の相談場所を目指しホーム喫茶を開催している。地域で困っている人の情報も耳にするようになった	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営会議では、地域のイベントの情報等得ることが出来る。又いろいろと利用者向けの良い場所があると教えてもらったり、情報交換している。他グループホームと交流をすることも出来、利用者さんの楽しい意見も聞くことが出来た。又ホームのイベントにも参加してもらい、にぎやかになっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議は居間で行っており、自治会長や民生委員、地域住民の方やご家族、他事業所職員が参加している。毎回、活動報告後には、「避難訓練」「看とり」等のテーマを決めて取り組みを報告し、意見交換を行っている。最高齢の利用者が若い頃のご自分の仕事について話した際には、皆が聞き入るような様子が見られたようだ。地域の方から、地元でも知られていない花見の名所を教えてもらい、ドライブに出かけて皆が感動したようなこともあった。議事録は参加していないご家族に見てもらえるよう玄関に掲示しているが、今後は事業所便りと一緒に送付したいと考えていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>行政の開催する研修、認知症の講演等は進んで参加し、必要なときは相談できる関係を作っている。良い情報もいただけるので助かっている。行政より配布してもらった資料を、ホーム喫茶でも配布し勉強会をしている</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に市の担当者が参加しており、熱中症の予防法や口腔ケアの大切さを話している。又、会議時に地域の方が気になる高齢者について話したことがきっかけで、市の担当者が自宅を訪問してくれて次会議時に状況を報告してくれた。2ヶ月に1回、介護相談員の訪問があり、各ユニットの居間で、お茶を飲みながらお話を聞いてくれている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>「拘束は一切しない」ということは契約時に家族に伝え、職員全員で取り組んでいる。自由に出かけて危険なときは職員と一緒に出かけていく。施設内の勉強会は必ず参加するようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>玄関は施錠しておらず、自由に入出入りできる環境にある。中庭を囲むように2つのユニットが配置されており、居間や居室の掃き出し窓からは行き交う人の様子や景色がよく見えて開放的である。入居間もない方が一人で出かけて行くようなことがあるが、敷地内の法人施設の職員の協力もある。骨折の経緯のある方の居室では、ベッドの足元に衝撃を和らげるような介護用マットを敷いて対応している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での研修も徹底しており、職員も理解している。今まで問題はなかった。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内で研修があり勉強している。利用されている方もいて、訪問ある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時は契約書に基づき説明して、納得の上入居してもらっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設玄関には「ご意見箱」が設置されており自由に意見を言ってもらっている。運営推進会議にも出席してもらい、意見を聞く機会を設けている。又面会時、電話等で遠慮なく要望等を聞くようにしている。	
			(外部評価) ご家族には、ホーム便りを送付し、外出や行事、日常の様子を報告している。家族会は、納涼祭やいも炊きの行事に併せ行っており、毎回7名ほどのご家族の参加がある。ご家族同士で話すことで、他ご家族や利用者のことを知ることもできて親睦も深まるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日のミーティング、月一回全体会議を開催し、自由に意見を言って、事業所の改善に努めている。お陰で職員の意識も変わったようで、前向きに取り組んでくれる。 (外部評価) 法人部長が毎日昼食を食べに来ており、利用者の様子を見たり、職員と話を希望や意見を言いやすいように雰囲気を作っている。今年4月から、介護福祉士の資格保有者は全員正職員に採用されており、又、職員も増員された。又、法人全体の慰安旅行やビアガーデンや忘年会等で交流して、法人全体で職員がイキイキと意欲的に働くことができるよう努力をしている。管理者は、グループホームの全国大会でホーム喫茶の取り組みについて発表した。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が意欲、やりがいを感じられるように、処遇改善等に努めていたが、今年4月より大幅に処遇が改善され、職員が喜んで働くことに前向きな様子が見える。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外での勉強会、研修等に進んで参加できるようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム協会での研修、相互研修等に参加して勉強、交流をしたり、他ホームの職員利用者さんとの運動会を開催し、交流を深めると共に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントをしっかりとて、本人さんの思いを知ることが必要と考え、本人さんの意見を傾聴している。そして本人さんに安心してもらえるように勤める。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族さんの気持ちに寄り添いながら、困っていることへの解決に努める。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回面接時等の聞き取りの中で、必要であれば他施設の空情報等を含めて話し合っている。 他事業所よりの情報もある。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者さんを年長者として敬い、意見を聞いたり教えてもらいながら、職員も成長させてもらっている。 最近では利用者さんに教えてもらうことが多々ある。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族さんとは連携を密にし、情報を共有しながら本人さんの介護に当たっている。必要時は家族さんの協力も得られる。 又本人さんの暮らしを心配されている家族さんに対し、年4回ホーム便りを作成し、送付している。 又当事業所での機関紙も発行して、いろいろ本人さんの近況を知ってもらっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 通院の途中住んでいた家の近くの道を通って行くと、いろいろな在宅での生活ぶりを聞くことが出来る。地域の行事に参加すると、懐かしい顔に会うことが出来る。 又通院時も本人さんのかかりつけ医に行くとなじみの人に出会い、懐かしそうである。 (外部評価) 檀家のお寺が新しくなったのを見に行きたいと希望する方には、職員が付き添ったり、友人の訪問時にお土産を用意したいと希望する方には、買い物に付き添い支援している。出身地の馴染みのお祭りを楽しめるよう、数名で出かけられるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さん同士が会話を楽しめるような場を作っている。中にはどうしても上手い出来ない人も居る為、トラブルにならないように、職員が早めの対応をしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族さんとの関係を大切にしていると、亡くなられても連絡を取り合ったり、「懐かしい」といって尋ねてくださる。町で出会っても思い出話が出来た関係。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんのお話を傾聴することで、思っていること、本人さんの好み等を知り、職員で周知している。喫茶店に行くのが楽しみな利用者も、家族さんに納得してもらった上で、一緒に行く。 (外部評価) 食事中、職員はむやみに席を立たず、食べ終わってもしばらくお膳を片付けないで、ゆっくり過ごせるような雰囲気を作っている。調査訪問時には、好きな飲み物を用意して、編み物の得意な方の話を聞いたり、テレビで見たスケート選手についての話題で話が弾んでいた。職員は会話の時間をじっくりとすることで、個々の意向の把握に努めており、管理者は取り組みを続けることで「お一人おひとりが落ち着いてきた」と成果を感じていた。アセスメントは、これまで活用していたセンター方式の様式から、項目をピックアップして1枚の用紙にまとめ、利用者のことがひと目で把握できるよう工夫していた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人さんの記憶に残っている生活に触れることが出来る。そしてその中で本人さんの思いを知ることが出来る。喫茶店で飲むコーヒーは気分的に違う様子。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人さんには、今出来ることを忘れずにしていただくように支援している。(出来ることを取り上げないように)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>本人、家族さんと担当職員、計画作成担当で話し合ったり、電話で聞き取りして、より良い生活の提供に心がけている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画についての話し合いに参加できるご家族には同席してもらい、意見や要望を聞き反映している。遠方に住むご家族には、電話で聞き取っている。ご家族は、「動かしてほしい」と希望する方が多く、草引きや食事作り、洗濯たたみ、布団たたみ等、利用者個々が自宅で行っていたことを計画に採り入れるようにしている。モニタリングは、毎日 × で記入し、毎月評価して6ヶ月ごとに計画を見直している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>毎日の経過記録、ケアプラン実施チェック表、月ごとのケアプラン評価表、アセスメント等を参考にしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>いつでも本人、家族さんの必要に応じた情報を提供し、要望に沿えるように努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>いつでも本人、家族さんの必要に応じた情報を提供し、要望に沿えるように努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域との関係を絶たないように、情報を得ながら地域に出かけて行き、歩み寄りながら、良い関係を作り込みに心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域との関係を絶たないように、情報を得ながら地域に出かけて行き、歩み寄りながら、良い関係を作り込みに心がけている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>地域との関係を絶たないように、情報を得ながら地域に出かけて行き、歩み寄りながら、良い関係を作り込みに心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医に往診をしてもらえるようになって、施設内の状況も知ってもらい、見取りに関しても協力してもらえるようになった。病状についても、必要なときは家族に詳しく説明してくれ、進んで専門医に紹介してもらえるうえ、連携がとりやすくなった。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の内1名は、入居前からのかかりつけ医を継続している。その他の方は協力医が主治医となっており、毎月1回往診してもらっている。受診時は職員が付き添い支援しているが、入院や状態変化時は、ご家族にも同行してもらい、一緒に説明を聞くようにしている。年1回は健康診断を受けられるよう支援している。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護師は毎日様子を見に来てくれて、個人の経過記録に目を通して、必要な指示を得ている。緊急時は、老健の看護師にも相談できるようになっているので安心できる。夜間の緊急時等は応援も期待できる。訪問看護師も協力してくれる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>病院側には必要な情報を提供し、協力している。家族が遠い人は、必要な物品も準備し困らないようにしている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>病棟側には必要な情報を提供し、協力している。家族が遠い人は、必要な物品も準備し困らないようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>本人家族さんの希望に応じて、看取りをするようになって、主治医も気持ちよく相談に乗ってくださるようになった。家族さんも安心して、協力してくださる。又看取りをすることで職員も成長できたと思う。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人家族さんの希望に応じて、看取りをするようになって、主治医も気持ちよく相談に乗ってくださるようになった。家族さんも安心して、協力してくださる。又看取りをすることで職員も成長できたと思う。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>この2年間で2名の方の看取りを支援した。今年12月に100歳の方を支援した事例では、前日まで口から食べて、状態の良い日には湯船に浸かって入浴できるよう支援した。トイレもポータブルトイレを使用し、最期までなるべく普段通りの生活ができるよう取り組んだ。他利用者からは、「あがいなんがええな」と感想があったり、「えらかったな」と言って顔をなでるような場面が見られたようだ。お見送りの際には、利用者が生前日向ぼっこしてよく過ごされた芝生広場の場所にお連れして、皆でお別れした。研修で習った「パン粥」を食べて看取りの状態から回復した利用者が複数いることから、ホーム喫茶の折には、地域の高齢者にも紹介をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 施設内研修、地域密着型の研修等で勉強する機会がある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 法人内で年2回、避難訓練を実施しているが、その際グループホーム独自の訓練を取り入れている。 又年に一度、東北大震災にあわせて行われる地域での訓練には、サイレンと同時にグループホーム独自で行っている。 (外部評価) 災害時には、敷地内の法人施設と連携する協力体制が整っている。年2回の法人全体の避難訓練時には、夜間の火災想定で訓練を行い、避難誘導や消火訓練を積み重ねている。毎年、3月11日に地域全体で行っている災害訓練時には、サイレンとともに事業所でも独自訓練を行っている。利用者は机の下部にとっさに隠れることが難しいため、手作りの防災頭巾や居室の布団で身を守れるよう訓練している。水や米、軽食を備蓄したり、利用者個々の薬5日分や救急セット等も常備している。	管理者は今後、運営推進会議時に災害訓練を行ったり、地域の消防団との関係作りにも取り組みたいと話していた。いざという時に地域と協力し合えるよう、取り組みを具体的にすすめてほしい。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員一人一人が勉強して利用者に関わることで、同じ対応が出来ている。特に排泄介助等は、配慮して声かけをするように勤めている。 (外部評価) 職員ミーティング時には、プライドを傷つけない声かけについて話し合い、トイレに誘う際の言葉かけや動きを制限するような言葉かけはしないことを職員間で確認している。職員と利用者が同じ地域の知り合いの場合もあり、ご家族等に了承を得てご本人にとって心地よい昔なじみの呼び方で呼ぶようなケースもある。利用者の中には、使用済みのオムツを居室の押し入れにしまうような方もいるが、職員はさり気なく声かけして自尊心を傷つけないよう対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人さんがほしい物食べたい食事を聞いてメニューづくりの参考にしている。いきいたいところも出来るだけ希望に添うようにしている。お姉さん、弟さんが理、美容師をしている方は面会も兼ねて利用するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お茶の時間には好みの飲み物を聞いて用意している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 利用者と一緒に次の日に着る洋服を選んでい る人もあれば、自分のお気に入りを着て楽しむ 人もある。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みの味付け、下ごしらえ、等を一緒 にすることで、食事が楽しくなるように支援し ている。食べ終わると食事の片付けを手伝っ てもらい、お礼を言うとうれしそうに「これ くらいは出来るよ」の返事が返ってくる。食後 は殆どの方がゆったりとお茶を楽しむ時間 をもてるようになった。	
			(外部評価) 食事の献立は、メニュー系の職員を中心に利用 者の好みや栄養バランス等を話し合いなが ら立てており、主菜、副菜をユニットで交 代して調理している。食材は、週3回、利用 者と買い出しに行く。菜園で収穫した野菜 が献立に上ることもある。ラッキョウや大根 の漬物等は皆で手作りしており、「自分とこ でつくったら美味しいわい」と感想を話す 利用者もある。春先には散歩で採ってきた つくしやイタドリを利用者が下ごしらえし て、皆で旬の味を楽しんでいる。管理者は 「自分で食べたほうが美味しい。こぼし ても自分で食べてもらおう」と職員に話 しており、調査訪問日の昼食時、職員は先 々手を出さず見守りながら必要な部分 のみを介助していた。食後は台拭きをし る様子も見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量には充分注意している。看 取りをする中で、職員も食べることの大切 さが充分理解できていると思う。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後はお茶を飲んでゆっくりした後は、全 員で口腔衛生の声かけ介助に徹底してい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 自己負担の軽減の為に、出来るだけオムツを使用しないように、トイレ誘導、時間ごとの声かけの工夫をしている。	
			(外部評価) 自宅生活で排泄失敗のことで困っていた利用者の支援は、入居後、失敗する前にトイレに行けるよう2時間おきの誘導を継続し、現在日中は、ご自分からトイレに行けるようになり落ち着いている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便表の確認をし、主治医と相談したり、水分量、食品等に気をつけている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的に毎日入浴できるようになっているが高齢もあり、本人さんの状態によって適時に入浴している。入浴剤の使用で、気持ちよく利用されている。	
			(外部評価) 利用者の希望で毎日入浴する方が数名いる。立位が難しく一人で入浴することが難しいような場合は、職員2人で介助して湯船でゆっくり温まれるように支援している。その日の気分によってシャワーのみにする方もあり、職員はその都度希望を聞きながら支援している。入浴を嫌がる方でも、一番風呂をすすめたり、入浴剤を入れる等、「入ってみようかな」と思えるような支援に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない人はココアミルクなどで落ち着く場合がある。必要であれば医師と相談している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情はすぐに見えるようにしており、把握できる。服薬しても、「吞んでいない」と訴える人も居る為、薬の入った袋は残して、誤投薬を防止している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 広い敷地を利用して、焼肉、運動会等のイベントをしたり、外で食事をして気分転換をしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体力的に外出できる人が少なくなったが、季節によっては花見、ドライブ等楽しんでいる。 (外部評価) 日頃は、事業所周辺を散歩しており、調査訪問時には、車椅子やシルバーカーで庭に出て、ひなたぼっこしながら歌を歌っているような様子が見られた。管理者は、「社会の変化にも触れてもらいたい」と考えており、バイパスの完成後、通ってみるような機会も作っている。職員が業務で市役所へ行くような機会にも利用者を誘い、外出する機会を増やせるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の自己管理が出来る人は少ないが、週2回パン屋、ヤクルトの販売が来て、希望者は自由に選んで買っている。選ぶことの楽しさを味わってほしいと思っている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がかかってくると喜んで話されるが、手紙を書く人も少なくなった。希望があれば家族に電話をしている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			利用者さんと一緒に摘んだ季節の花を飾り、それを見て会話も生まれる。	
			(外部評価)	
			居間から庭へは、スロープで出られるようになっており、普段から外でティータイムをしたり、食事を楽しんでいる。玄関には、赤い実のモチの木を生けて、クリスマスツリーを飾っていた。居間には椅子やソファをあちこちに配置して、利用者それぞれにお好きな場所でテレビを見たり、仲の良い方同士でおしゃべりしながら過ごしていた。昼食前には、皆が集まりテレビ体操や口腔体操を行っていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価)	
			外にテーブルを置いて、天気の良い日は皆で音楽を聴いたり、レクリエーション、お茶を楽しんでいるが強要はしないようにしている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			入居時には、家族さんも自由に宿泊できることを説明し、希望者は家族用に自宅の布団もって来られる。	
			(外部評価)	
			居室の入り口に名前のプレートを付けているが、間違いやすいような利用者には、さらに大きく表示して見やすく、解りやすいようにしていた。各居室に洗面台があり、個々にヘアブラシで髪を整えたり食後の口腔ケアも行なっている。自宅で使い慣れたベッドやタンス等の家具を持ち込んだり、家族写真やプレゼントのアートフラワーを飾る方がいる。ソファや座布団に座ってテレビを見る方もいる。毎朝、カーテンを開け布団をたたみ、仏壇に手を合わせる方もいる。調査訪問時、前日に事業所で亡くなった方の居室に、他利用者と同じ食事を用意してお供えしてあった。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			本人さんに出来ることをしてもらいながら、出来ない部分を少し手伝い、自信を持って暮らせるように支援をしている。居室、トイレ、浴室も分かりやすいように、工夫をしている。洗濯たたみ、干すこと等は先にとるように手伝われる。	